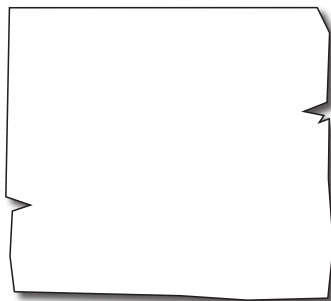


# 7 THE 7 FRAMES FOR ALL LIFE

## 7つのワクワク枠

## シンプル エピローグ

### ～分岐点～



木 岬 さんぽ  
KIMISAKI SAMPO

## 地球人類も いつかここへ——。

<sup>る</sup>妻<sup>ね</sup>瑠音、<sup>こ</sup>親<sup>こ</sup>友心笑君、おじいさん…と生み出し合う  
青年期 - 壮年期さんぽのフルーツフル誕生物語

SAMPO FRUITS



# 7つのワクワク枠

## シンプル エピローグ

’94 春（7 ヶ月後）

学生当時の、その研究発表の内容は、そのまま論文にまとめられ、マイナーな文献に掲載された。しばし反響があったらしかったものの、その後、ほとんど、みんなに忘れ去られてしまったらしかった。

’01 夏（6 年 10 ヶ月後）

僕と瑠音は、結婚した。

それから、夢見ているみたいに幸せな新婚生活の日々が続いた。

’08 春（14 年 6 ヶ月後）

瑠音のお腹の中で、小さな心臓の拍動のピコピコが初めて確認された。

ミラクルだと感じた。

心底ありがたいと感じた。

こうして、僕らは、赤ちゃんを授かったのだ。

このまま、無事育ってくれ！

わが家の新たな宝になってくれ！

そう願い続けた。

## ’09 冬（15 年 4 ヶ月後）

瑠音の出産に立ち会った。

その最中、出産が命懸けであることを肌身で感じ続けた。

どれくらい時間が経ったのだろう。どれくらいハラハラしたのだろう。どれくらい心が揺さぶられたのだろう。

瑠音は、ついに、赤ちゃんを出産した。

母子ともに無事だった。それが何よりだった。

ありがとう。ありがとう。ありがとう。 音楽イン ♪ Birthtime

すやすや眠っている赤ちゃんを、ほっとして心笑みながら見つめている母の安らぎの時間——。

それから、さらに夢見ているみたいに幸せな日々が続いた。

音楽フェード・アウト ♪ Birthtime

## ’09 初夏（15 年 7 ヶ月後）

あの岬にて——。瑠音に抱かれている赤ちゃん——。

「おお、おまえさんたちの赤ちゃんかい？」とおじいさん。

「そうだよ」と僕。

「おお、おお、とっても、かわいらしいのお」 笑みを浮かべながらのぞき込むおじいさん。 「——どっちかっていったら、母親に似ておるな？」

やさしい笑みを浮かべている瑠音。

「頭の“2つのつむじ”の位置は、父親とそっくりだぜ。アハハッ」

「どれどれ——、——あつ、本当じゃ。そっくりじゃ。」

アッハッハッ！」とおじいさん。

「アハハハッ」と瑠音。

瑠音は、おじいさんに赤ちゃんを抱っこさせた。

やわらかな笑みを浮かべ続けているおじいさん——。

「わしゃあ、幸せもんじゃ。すっごい幸せもんじゃ。ありがとうよ」

“3つ＋1つ”の笑顔がそこにあった——。

## ’09 夏（15 年 10 ヶ月後）

「ワッー!!!」 瑠音の絶叫が家じゅうに響き渡った。

別の部屋にいた僕は、ドキリ！として、あわてて駆けつけた。

「いったい、どうしたんだい！？」と僕が尋ねた。

「おむつ取り替えようとしていたら、突然おしっこが始まったの。

噴水みたいに——。もう、びっくりしすぎちゃったよ～！」

「——」 . . .

## ’09 初秋（16 年後）

我が子のお昼寝の前に、『Birthtime』のメロディーを使い、抱っこして子守唄のように歌ってあやしたり、おんぶして小さなキーボードで演奏してあやしたり…試行錯誤を繰り返していた。

## ’09 初冬（16 年 3 ヶ月後）

「おお!!」 「やったあ！」

我が子が初めて歩いた日——。

## ’10 春（16 年 7 ヶ月後）

我が子と一緒に、初めてと公園まで散歩した日——。

毎日、ますます夢見ているように幸せだった。

## ’11 春（17 年 6 ヶ月後）

大震災が直撃したのは、第 2 子の出産が近づいていた頃だった。

岬のおじいさんは、高台に逃げて無事だったけれど、家が地震と津波で全壊してしまい、仮設住宅で暮らし始めることになった。

## ’11 初夏（17 年 8 ヶ月後）

再び、瑠音の出産に立ち会った。出産が命懸けであることを、再び実感した。母子ともに無事であったことに、心から感謝した。

こうして、我が家に、新たな宝が増えた。

## ’11 夏（17 年 11 ヶ月後）

みんなで帰省した折、仮設住宅のおじいさんの元へ。

ニコニコしながら紡がれた、おじいさん語録——

「おお、こりやまた、かわいらしい子じゃ。おめでたいやき」

「上の子も、ずいぶん、大きくなったのお。ありがたいやき」

「わしゃあ、もう大満足じゃ。いつ死んでもいい」

「アイアイ愛じゃな。ワクワク枠、イキイキ息シリーズの最新版が見つかったわい。アッハッハッ！」

## ’11 初秋（18年後）

岬のおじいさんが老衰のために亡くなった。

おじいさんからの手紙には、感謝の気持ちがつまっていた。

若者たちへ

先日は、尋ねてきてくれて、どうもありがとう。

うれしかった。

どんなに苦しいときでも、ありがたさを見つけられる。

じゃから、どんなに苦しいときでも、笑っていられる。

それが人生じゃ。

幸せに生きるんじゃぞ。

これまで、本当に、どうもありがとう。

ありがとう。じゃあに。

岬のおじいさんより。

追伸、ちびちゃんたちにもよろしく。

追追伸、“アインシュタイン”にもよろしく。

## ’13 初夏～（19年8ヶ月後～）

『大栗先生の超弦理論』という本に出会って、衝撃を受けた。

この本との出会いをきっかけにして、全く予想外に、物理学の特  
大ブックサーフィンが始まり、物理学にのめり込むことになった。

それは、3ステップス自然哲学——3ステップス自然知愛の適用  
範囲をさらに深く広げようとする試みにつながっていた。

## ’14 初秋 (21 年後)

それから 1 年ほどの間、自己流で物理学に取り組んだ結果、光子や重力子の幾何モデルが生まれ、半信半疑だったけれど、ついに、重力が量子化できたかなと思えるような成果にまでたどり着いた。

でも、その成果は、従来の物理学の常識、“エネルギー保存則”と真っ向から対立していた。

教科書に載っているエネルギー保存則が間違えているはずがないし—— こっちの重力の量子化が間違えているにちがいないだろう。それにしても、いったい、どこが、どのように間違えているのだろう？

．．．

そのときだ。高校時代の心笑君のレアな笑顔が心に思い浮かんだのは。心笑君——ニュートン君、なつかしいなあ。

．．．

あの心笑君——ニュートン君なら、きっと、何か教えてくれるにちがいない。今ごろ、彼は、いったい、どこで何をしているんだろう？

## ’15 冬 (新春) (21 年 4 ヶ月後)

ニュートン君——心笑君と再会したいという思いが募った僕は、お正月に地元へ帰省した折に、彼の自宅を訪れることにした。

彼は、意外にも、大学院を中退して、帰郷して地元の高校の物理教師になっており、もうすでに 10 年近く経っていた。

久々に再会した心笑君は、これまた意外にも、名前らしく笑みをたたえ続けていた。もう笑顔がレアではなくなっていたのだ。

そんな彼に、彼の書斎で、さっそく、例の成果を見せてみた。

彼は、食い入るように読んだ。何度も読み返していた。

「どうもありがとう——」 心笑君が、しみじみとつぶやいた。かと思うと、「——うん、間違いない。ここから育まれる物理学は、従来の物理学を根底から改善させながら、自然 (nature) との調和性をより高められる可能性がありそうだよ」と続けて言った。

「——え？ でも、エネルギーが保存されていないよ。

従来の物理学の常識と真っ向から対立してしまっている。だから、きつと、どこか根本的に間違えているんだろうね」と僕。

「——間違えているのは、従来の物理学の常識の方、例外のないエネルギー保存則の方さ」 全く意外な答えが返ってきた。

「え？ でも、エネルギー保存則は、常識中の常識だぜ？

いくらなんでも、それは、ありえないんでないかい？」

「その気持ち、とっても、よくわかるよ。僕も同じだったから。

でも、よく確かめてみたら、例外のないエネルギー保存則の方が間違えていると納得できるのさ。例外のないエネルギー保存則は、よく確かめられてこなかったウワサにすぎなかったってことなのさ」

「——たとえ親友の君の言葉でも、さすがに納得できないよ」

「——実証するよ。例えば、ここにりんごがある」 心笑君は、りんごの1つを手を持った。「ここでりんごを手放せば、どうなる？」

「落ちるよ」

「落ちて、そのあとどうなる？」

「落ちて、そしたら、大きな音が出て、りんごの一部がへこんで、そのあと、りんごが転がるよ」

「そのとき、大きな音が出て、りんごの一部がへこんで、転がる際



のエネルギー源は何だい？」

「位置エネルギーだよ。落下すれば、位置エネルギーが運動エネルギーへと転換する。その運動エネルギーが、大きな音を生んだり、りんごの一部をへこませたり、りんごを転がしたりするのさ」

「その通りだね。学校の授業で習った通りだよ。」

では、次に、このりんごを、そうっと床に置いたらどうなる？」

「どうなるって——」

「大きな音、りんごのへこみ、りんごの転がり、はどうなる？」

「生じないよ」

「その通り」 心笑君は、実際にそうっとりんごを床に置いてみてから口を開いた。「ここで疑問に思わないかい？」

「どんな疑問？」

「大きな音を生じたり、りんごをへこませたり、りんごを転がしたりできたはずのエネルギーは、どこへ行ったのか？ って疑問さ」

「——どこへ行ったんだい？」

「消滅したのさ。そのことが、以上で実証されたことになる」

「ええ？！ 待った、待った。でも、エネルギー保存則によれば、エネルギーは消滅しないはずだよ。きつと、大気との摩擦熱とかに変化して、エネルギーが逃げたんだよ」

「同じような実験は、空気がほとんどない真空中でもできるよ」

「——」 . . .

「確かに真空中では音が出ないけれど—— 落ちたりんごは、へこんだり転がったりするはずなのに、そうっと下ろせば、りんごは、へこまないし転がらない。大気との摩擦熱や音としてほとんどエネ

ルギーが逃げようがない真空中において、りんごをへこませたり転がしたりできたはずのエネルギーは、いったいどこへ行ったんだい？」

「——」・・・消滅したとしか考えられない？ 「——ええ？！エネルギーって、実は消滅するの？」

「そうさ。同じような実証実験は、卵や陶器の皿でもできる」

「——確かに」

「しかも、エネルギーが消滅する事実に加えて、自然界で一見エネルギーが保存しているように見えている事実があるから——自然界のどこかでエネルギーが生成していなければおかしいってこともわかる。つまり、エネルギー消滅の実証実験から、エネルギーは、どこかで生成しているはずだってことも無理なく予想できるのさ」

「——」・・・

「実際、エネルギーの生成の例は、見つけられる。

例えば、従来の量子物理学においてさえも、すでに、短時間であれば仮想粒子が生成&消滅することを認めている。この仮想粒子が生成&消滅する過程では、平均エネルギーがプラスマイナス0であり続けているのではなく、その短い時間の間、平均エネルギーがプラスであり続けていて、その間エネルギーは生成しているんだ。

しかも、時空が不連続ならエネルギー保存則が成立しないことを、ネーターの定理が証明している。だから、プランクスケールで時空が不連続である君の成果において、光子や重力子の生成過程がエネルギーの生成過程であっても全く問題がなくなるんだよ。

これらの意味で、エネルギーの生成は、自然 (nature) と調和し

ているだけでなく従来の物理学とも調和していることになるんだ。

しかも、例えば、電荷エネルギーや磁極エネルギーは、周囲に生成する仮想光子を何度剥ぎ取って光子を生成させても、その都度再生する究極の再生可能エネルギーでもある。この電荷エネルギーや磁極エネルギーからエネルギーを引き出す方が、質量エネルギーからエネルギーを引き出すより、はるかに安全で桁外れに効率がいい。例えば、陽子1つ分の質量エネルギーよりも、陽子1つ分や電子1つ分の電荷エネルギーの方が、 $10^{18}$ 倍以上も大きいから」

「 $10^{18}$ 倍以上——」 チンプンカンプンで意味もよくわからないまま、僕は、その部分を繰り返した。——心笑君には、かなわないや。

「そうさ。この桁外れに効率のいいエネルギー源こそが、あらゆる電磁波のエネルギー源でもあるんだ。太陽から地球へ届く光、電気ストーブから放出される赤外線、携帯電話やスマホから放出される電波も例外じゃない。もちろん、電子等の電荷が振動する際に、熱運動エネルギーとして周囲に散逸する形ではエネルギーが消費される。でも、同じ際に、生成した仮想光子がはぎとられて電磁波が周囲に放出される形だけではエネルギーは全く消費されないんだ。だから、太陽の寿命は従来の質量エネルギーを用いた計算より延びるし、健康被害を含め最近悪者にされることの多い電磁波は、上手に利用できれば、本来、人類の大きな味方になりうるのさ」

そこで、僕は決意を固めた。「——心笑君、ここから先は、ぜひ、心笑君が育ててみてくれるとうれしいんだけど、どうかな？」

「本当にいいのかい？ これを十分に育めれば、物理学を成熟させられて、もしかしたら本当に21世のニュートンになれるかもしれ

ないんだぜ？　こんなに、やりがいがあってワクワクできる学問分野は、めったにないんだぜ？」

「いいも何も、誰より心笑君こそが最適役だよ。

それに、その方が、きっと全人類のためにもなっているよ。

——それに、恩返しでもある。

僕らが結婚できたのは、君のおかげでもあるのだから——。

それに、この試みが成功したら、これがきっかけとなって、君に、いい縁談話が舞い込むかもしれない」

「——フフッ」

「心笑君——　君こそ、21世紀のニュートンになってほしい。

それこそが、僕や瑠音を含めて、みんなが喜ぶことさ」

「——ありがとう。

実は、恩返しすべきなのは、こっちの方こそなんだよ」

「——え？」　　？？？

彼は、机の引き出しから、ある文献を取り出した。

それは、20年以上前の学生時代に僕が書いていた、あの論文を収録した文献だった。見るからに、ぼろぼろになっていた。

「それは——」

「そう。君の研究論文さ。君の成功が心底うれしくて、すぐ購入して、当時から読んでいたんだよ」

「——」

「結構ぼろぼろになってしまったけれど、ぞんざいにあつかったり、保存状態が悪かったりしたせいじゃないんだぜ。何度も何度も読み返したからなんだ。ここ20年くらいの間に、何十回何百回と読み

かえしているよ」

「——」 言葉にならなかった。涙が込み上がり、しばし、涙ぐんだ状態のまま涙をこぼすのをこらえた。

「それで、君の論文がヒントになって—— 実は、僕も、すでに新しい物理学を育んでいたんだよ。大学院に進学した頃から——。

この新しい物理学は、大学院を中退して帰郷する心の支えにもなっていた」

「——」 . . .

「だから、君の重力の量子化と、僕の重力の量子化が、瓜二つであるのを見て、驚いただけでなく、心底うれしかった。

それを見て、確信したんだ。間違いないんだなって——。

自分が進んでいる道が間違えていなかったんだよって、本家本元から、お墨付きをもらえたような気分だよ」

「——」 . . .

「君と僕は、別々に同じことを発見したことになるんだよ。

僕は、ずっと孤独に、ひそかに、この新しい物理学を育んできていたから、そのことが、どんなに心強いことか——」

彼は、机の引き出しから、プリントアウトされてクリッピングされていた用紙の束を取り出すと、重力の量子化の成果が載っているページを広げて見せてくれた。

確かに瓜二つだった。それでも、彼の成果の方が、はるかに厳密で、はるかに深みを持っていることは、一目瞭然だった。

ページを閉じた彼は、「まだまだ完全からほど遠くて未完成なのだけれど——」と言いながら、その用紙の束を、僕に手渡してくれた。

僕は、しばらく食い入るように読みながらページをめくり続けた。

心笑君が、はるかに先に、はるかに広く進んでいることは明らかだった。彼は、3ステップス自然哲学——3ステップス自然知愛の適用範囲を、物理学のほぼ全分野にまで広げていた。

「時間は無限じゃないから、どこかで切り上げなければならないんだけどね」 心笑君は、静かに、そう言った。

心笑君は、素スピノル物理学としての体系化をすでに見事に成し遂げ、新しい物理学を誕生させていたように思われた。

それは、まさに、心笑君の健やかな自己実現——自己フルーツ化、そして、彼らしいフルーツの現出だった。

その成果には、さまざまな統合も含まれていた。

それらの成果を読み取った僕は興奮しながら口を開いた。「すごいよ！！ アインシュタインもできなかった統合を成し遂げているよ！！ 自然との調和性が高まっているよ！！

間違いないよ！！ 君は、まさに21世紀のニュートンだよ！！

早く公表しようよ！！」

「——ありがとう。

でも、まだ自信ないんだ。まだまだ完全から、ほど遠いから——。

それに、まだまだ改善の余地があるはずだけでなく、大きく間違えているところもあるかもしれない——。

本物のニュートンも、自身の研究成果の発表をためらっていたらしいけれど、その気持ち、今、とてもよくわかる気がするんだ。

——それで、提案なんだけれど、一緒に連名で公表しないかい？

重力の量子化の説明は、ふたりとものが別々の発見者だったのだし、

そもそも、君の成果である3ステップス自然知愛が大いに役立っていたのだから」

「——うれしいよ。ありがとう。

でも、それは、おこがましいよ。こっちは、ちょっとした思いつきを、片手間に、ちょこちょこっと細々と試してみただけの話さ。

本物のニュートンのように、統合を果たしながら新しい物理学を体系化し、自然との調和性を高めているのは、まさに、心笑君、君なんだよ。3ステップス自然知愛については、それが役立っていたことを、さらっと触れてくれるだけで、こっちは十分満足だよ。

この各種の統合を含む物理学の新しい体系化、自然との調和性の向上は、まぎれもなく君が誕生させた成果であり、すべて君の業績であるべきなんだよ。

その方が、21世紀のニュートンとして、誰もが納得できることだよ。それに、その方が様になっていてカッコいいよ。

よっ！ 21世紀のニュートン！ 人類の宝だよ！」

名前らしく笑みたたえていた心笑君が、さらに笑顔になった。

## ’16 初夏（22年9ヶ月後）

それから1年半近く経った頃、心笑君の新しい物理学の体系は、さらに磨き上げられて、ついに公表されるに至った。

“時間が無限でないから”という条件の中の妥協の産物の一面もあったとのことだったけれど、心笑君らしい見事なフルーツだった。

さまざまな新しい統合が示されていたのみならず、健やかな全人類レベルのライフの誕生のためにもなるだろう、画期的な応用にたどり着くためのヒントも示されていた。

これらの新しい物理学の成果は、自然科学に革命をもたらすだけでなく、健やかな全人類レベルのライフの誕生のためにも、健やかに天体生態系社会レベルのライフの一員になるためにも役立ち、多くの人々を喜ばせられるはずだと僕は確信し始めていた。

心笑君は、「これらの成果の一部は、もしかしたら本当にいて何万年何億年も存続しているかもしれない宇宙人にとっては、すでに常識的な内容であるかもよ」とも冗談半分で言っていた。

心笑君は、きっと、多くの人々に祝福されながら、もっともっと幸せになれるだろう。僕は、そう確信し始めていた。



## それから何年も後の初夏（何十年も後）

帰郷の際の散歩がてら、あの地球のかすかな丸みがわかる岬に久々に一人で来ていた。座りながら思った。

僕は、地球人だ——。

いや、それだけでない。僕は、宇宙人でもある——。

「わしゃあ、宇宙人じゃからのお」 おじいちゃんは、そうとも話していたっけ——。

...

——ああ、すっかり眠たくなってきたよ。

いったん、お昼寝でもしようか。

横になった。

でっかな青空が広がっている。白い雲が浮かんでいる。

さわやかな潮風が全身をなでている。

それから目を閉じた。

ゆっくり、ゆったり深呼吸しながら——

お心笑しながら—— かつてのおじいちゃんのように——。

まどろみの中で、替え歌を作っちゃったりもしながら——。

作曲 初果ひるね 作詩 おじいちゃんひるねさんぽ——。

タイトル『Joy of Life』 ——『生歓喜』？

ドコドコドコトバ♪ ココココココロ♪ イマイマイアタマ♪  
 ポカポカポカラダ♪ イキイキイキモチ♪  
 ありがたいやき♪ おめでたいやき♪ ここえみたいやき♪

アイアイアイデア♪ ワクワクワクフウ♪ ニコニコニココエ♪  
 ポカポカポカラダ♪ イキイキイキモチ♪  
 ありがたいやき♪ おめでたいやき♪ ここえみたいやき♪

いつも、ここから♪ いつか、ここへ♪ ついに、ここに♪  
 ありがたいやき♪ おめでたいやき♪ ここえみたいやき♪

For All Life♪

All Life Forever♪ All Life Forever♪  
 ピピピーピピー♪

All Life For♪

All Life Forever♪ All Life Forever♪  
 ピピピーピピー♪

アイアイ、アイアイアイ♪ ワクワク、ワクワクワク♪  
 イキイキ、イキイキイキ♪ ニコニコ、ニコニコニココエ♪  
 ルンルン、ルンルンルネ♪ サンサン、サンサンサンクス♪  
 For All Life♪ All Life Forever♪

...



## ミライのいつか

健やかな全人類レベルのライフが誕生してから、ずいぶん長い時間が経過している。

協力関係、シナジー関係、『Love - Love の関係』…が増え続け、健やかな天体生態系社会レベルのライフの一員となり、本物の平和が訪れてから久しくなっている。

健やかさ——楽しみ、ユーモア、恵み、心笑、イキイキ、ニコニコ、ワクワク…を増やし続けながら、健全な持続可能な世の中が実現し続けている。

全人類レベルのライフは、究極の再生可能エネルギーの恩恵を受けながら、ますます健やかに暮らし続けている。

食糧問題、燃料問題を含むエネルギー問題も、スカッと解消され続けている。

各種の気候帯の間の自然の恵みの格差も、全く解消されている。

紛争問題も、すっかり解消され続けている。

水不足、砂漠化、気候変動、環境汚染、生態系破壊…を含む環境問題も、きちっと解決され続けている。

自然治癒力も重視されながら、人口問題を含む医療問題の多くも、しっかり解消され続けている。

…

どれもこれも、十分に成熟した自然知愛、そして、十分に成熟した自然科学が、みんなに共有されながら、みんなのために、有効活用され続けているおかげで——。

音楽 ♪夏 Summer イン ミライのいつかのある日その1へ続く

# ミライのいつかのある日その1

とある学校（～12歳）の夏の授業風景——。

「今日は、エネルギーが消滅することを確認する実験をします。

みなさんは、高いところから物体が落ちている間に、物体の速さが増すことを知っていますね？」

「はい♪」

「それでは、この、高いところから落ちている間に速さが増すことによって、物体が獲得するエネルギー、詳しくは運動エネルギーによって、物体が床に落ちたときに何が起こるかについて、具体例を挙げて説明してみてください」

「——高い所から床に落ちたボールは、弾みます」

「そうですね。高い所から床に落ちたボールは、弾みますね。

ほかに、ありますか？」

「高い所から床に落ちた卵は、べちゃっとつぶれてしまいます」

「泥だんごも、べちゃっとつぶれてしまうわ」

「雪玉も、べちゃっとつぶれてしまうよ」

「そうですね。高い所から床に落ちた、卵や泥だんご、雪玉は、べちゃっとつぶれますね。ほかに、ありますか？」

「——高いところから床に落ちた陶器やガラスのお皿は、大きな音を立てて、割れてしまいます」

「その通りですね」

「プラスチックや金属のお皿ならば、弾んで大きな音が出るよ」

「そうですね。ほかにないですか？」

「カスタネットやタンバリンならば、弾んで楽器の音が鳴るわ」

「その通りですね。ほかに、まだまだ、たくさんあると思います。

高いところから床へと物体が落ちると、弾んだり、つぶれたり、割れたり、音が鳴ったり…します。

それでは、高いところから床へと物体が落ちた際に、弾んだり、つぶれたり、割れたり、音が鳴ったり…するためのエネルギー源は何でしょうか？」

「高い所から落ちている間に物体が獲得する運動エネルギーです」

「大正解です」

「先生、自分で、最初に正解を話していたじゃん」

「フフフッ。そうでしたね。

つまり、高い所から床まで落ちている間に物体が獲得した運動エネルギーが、物体が弾んだり、つぶれたり、割れたり、音を出したり…の変化を引き起こすためのエネルギー源になったのです。

それでは、次に、物体をそうっと床に下ろすことを考えてみましょう。例えば、ボールをそうっと床に下ろしたら、どうなりますか？」

「弾みませんし、音を出しません」

「そうですね。卵をそうっと床に下ろしたらどうなりますか？」

「卵は割れませんし、丸い形のままです」

「そのとおりですね。泥だんごや雪玉は、どうですか？」

「泥だんごや雪玉は割れず、そのまま丸い形のままです」

「そうですね。お皿は、どうですか？」

「割れませんし、弾みませんし、音を出しません」

「カスタネットやタンバリンは、どうでしょうか？」

「音を出しません。静かなままです」

「それでは、物体をそうっと床に下ろしたときは、なぜ、そうならず、そのままになるのでしょうか？」

さきほどの、物体が弾んだり、つぶれたり、割れたり、音を出したり…するためのエネルギー源、運動エネルギーが、どうなったからでしょうか？」

「そんなの簡単だよ。運動エネルギーが消滅したからだよ」「エネルギーが消滅しうることは、常識中の常識だわ」…

「そうですね。よく知られているように、運動エネルギーが消滅したからです。

今、みなさんは、エネルギーが消滅しうることを、あたりまえの常識として知っています。

しかし、過去に、何百年もの間、“エネルギーは消滅しない。エネルギーは永久不滅である”と、心底思い込み続けていた時代が、人類にはありました。

かつて、あらゆる物理学の教授や教師も含めて、ほとんどの人間が、エネルギーは永久不滅だと思い込んでいたのです」

「先生、どうして、そんなに、おバカさんだったのですか？」

「これこれ、おバカさんなんて決して言ってはなりませんよ。逆に利口すぎたのかもしれないのですから。

当時の人類にとって、エネルギーの永久不滅こそが、最新最高の自然科学の基礎だったのです。例外のないエネルギー保存則は、当時、あらゆる教科書に印刷され、あらゆる教師が教え、あらゆる生徒・学生が学んで身につけていた常識だったのです。当時、あらゆる学者が、この例外のないエネルギー保存則を常識にしながら学問

を育んでいました。当時は、老若男女、ほとんど誰もが、心の底から、例外のないエネルギー保存則が最も普遍的な真理だと思い込んでいたのです。当時、人類最高の頭脳を持っていると崇められていたアインシュタインという物理学者も例外ではありませんでした」

「それなのに、どうして、人類は、エネルギーが消滅しうることに関心することができたのですか？」

「それは、ココエのおかげです。ココエが、初めて、はっきりとエネルギーが消滅しうることを体系的に示したおかげだったのです」

「知ってる、知ってる。ココエのりんごだろ？」 「有名だよよね」

「そうですね。万有引力の法則がニュートンのりんごならば、エネルギーの消滅はココエのりんごですね。

ココエは、考えごとに没頭しているときに、手に持っていた大好きなりんごを、あやまって落としてしまったのです。

りんごは、床に落ちてしまい大きな音を立てました。

ココエは、そのりんごを拾い上げると、大好きなりんごの傷つきよう、へこみようを見て、嘆きました。

でも、そのあと、ココエは、ピンときたのです。

高い所から落としたりんごは、傷ついたり、へこんだり、音を立てたりする。しかし、そうっと下ろしたりんごは、傷つかないし、へこまないし、音が鳴らない。これは、いったいなぜなのか？

ココエは、その疑問を、とことん、つきつめ続けました。そのような思索の結果生まれた成果が、当時の常識を覆していた“エネルギーの消滅”の発見であり、そのことが、彼が育んでいた新しい物理学を支えることになりました」



「おもしろい♪」 「おもしろいね♪」

「おもしろいですね。」

ニュートンは、落下するりんごをヒントにして、万有引力の法則を発見したと言いつたえられています。

ココエは、あやまって落としてしまったりんごをヒントにして、エネルギーの消滅を発見したと言いつたえられています。

さあ、みなさんも、りんごから、新しい何かを発見できるかもしれませんよ。チャレンジしてみてくださいね♪」

「ハイ♪」

音楽終了 ♪夏 Summer

## ミライのいつかのある日その2

とある学校（～15歳）の秋の授業風景——。

音楽イン ♪秋 Autumn

「みんなも知っているように—— かつて、エネルギーは永久不滅であり、生成も消滅もしないと心底信じていた人が大多数だった時代が300年以上も続いたんだ。当時、最も有名で偉大だった物理学者の一人、アインシュタインまでも心底信じきっていたほどだった。

このエネルギーの永久不滅の原理を土台にする例外のないエネルギー保存則は、当時の最新最高の科学の1つ、一般相対性理論を育む支えになったことを含め、ある程度は確かに役立っていた。

しかし、そのせいで、物理学という学問は迷路にはまり、その進歩が停滞し、人類は、究極の再生可能エネルギーの十分な健やかな利用から長らく遠ざかり続けることになった——」

「300年も、例外のないエネルギー保存則を信じていた人々が、ほ

とんどだった時代があるなんて信じられないよ」「例外のないエネルギー保存則のせいで、究極の再生可能エネルギーの十分な健やかな利用から長らく遠ざかっていたなんて、当時の人々は、なんて愚かだったんだろう」

「こらこら、決して愚かなんて言うてはいけないよ。彼らは、一生懸命、全力で、心底、そう思いこみ続けていたのだから。

——みんなは、どうして、こうなったと思うだろうか？」

「人は流されやすいからよ」「自分を守るために同調するからさ」

「不安だったからだわ」「疲れていたからよ」「何となくさ」

「地球中心が好きだったように、永久不滅が好きだったからよ」…

「そうだね。どれも原因として考えられる」

「先生は、どう思っておられるのですか？」

「先生は、思うんだ。結局は、多くの人が、心の自由を持っていなかったからじゃないかって——。

もし、多くの人が心の自由を持っていて、自由に感じて、自由に考える習慣を持っていたら、決して、こうはなり続けなかっただろうって——。

「——」

「今は、りんご、卵、皿、ボール、楽器…をそうっと下ろす過程、たったこれだけの簡単な過程によって、エネルギーの消滅が実証されていることに、誰でも気づくことができる」

「ココエのりんご——。誰でも、どこでも簡単に実証できる、わかりきった常識です」生徒の一人のつぶやき。

「ところが、かつての人々にとっては、その常識が、逆に、とんで

もない、ばかげた非常識だった。先生が目目してほしいのは、人類が、その今の常識に気づくまでの300年もの間、何十億何百億人もの人々が、物をそうっと下ろす過程を体験していたことだよ」

「——」

「目の前でエネルギー消滅の実証実験が何億回も何兆回も繰り返されていたのに、そのことに誰も気づけなかったのは、なぜだったのだろうか？　ここで改めて考えてみてほしいんだ。

いや、もしかしたら、誰かは、とっくに気づいていたのかもしれない。でも、とっくに気づいていた誰かも、なぜ、そのことについて深く考えようとしなかったのだろうか？　あるいは、その考えを公表しようとしなかったのは、なぜだったのか？　そんなふうにも考えてみてほしいんだ」

「——先生は、心の自由を持っていなかったからだとお考えなのですね？」

「そうだね。先生は、誰もが身につけていた当時の古い常識が、結局、心の自由を奪い続けていたからじゃないかと思っている。

大きくとらえれば、現在があるのは、あれもこれも、みんな一人一人が、心の自由を取り戻し、自由に感じ、自由に考え始め、ただ何となく鵜呑みにして受け入れていた古い常識の真偽をよく確かめ続けたおかげなんだ。ココエのりんごも、いいきっかけの1つになりながら——。

それは、同時に、みんな一人一人の心の再生、復興、全快…のおかげ、一人一人の、クヨクヨ、ビクビク、オドオド、ウツウツ、モンモン、ヘトヘト、ムカムカ、イライラ、ピリピリ…から、ニコニ

コ、イキイキ、ワクワク、ウキウキ、スイスイ、ヒョウヒョウ、ホ  
ワホワ、アイアイ、ルンルン、ピンピン、ユウユウ…への主体的な  
方向転換のおかげでもあった。

この主体的な方向転換が、私たちの中にもともと備わっている、  
自然治癒力の根幹であり、再生可能<sup>こころ</sup>エネルギーの根源なんだ。

再生可能<sup>こころ</sup>エネルギーという言葉をもとに使い始めたのは、まさ  
に、究極の再生可能エネルギーという言葉をもとに使い始めたココ  
エ自身だった。

ココエは、この再生可能<sup>こころ</sup>エネルギーのおかげで、心の自由を得  
ることができ、数々の絶望を乗り越えながら、すばらしい成果を誕  
生させることができた。

つまり、人類を飛躍させる究極の再生可能エネルギーの十分な健  
やかな利用をもたらした大元は—— 心の自由を生んだ再生可能<sup>こころ</sup>  
エネルギーでもあったんだ」

「おもしろい♪」

「そうだね。おもしろいね。」

だから、みんなは、頭だけでもなく、体だけでもなく、ぜひ、心  
も大事にし続けてほしい。ココエのように——」

「ハイ♪」

音楽フェード・アウト ♪秋 Autumn

## ミライのいつかのある日その3

とある学校（～18歳）の冬の授業風景——。

音楽イン ♪冬 Winter

「かつて、人類は病<sup>わづら</sup>を患い、長い暗黒時代を過ごし続けました。

パイ取り合戦、フルーツ争奪合戦、不満足、不知足、相互破壊、相互絶滅…これらの病、Against Life 病に、人類が翻弄され続けた時代を何と呼びますか？」

「“人類の進化の傷あと時代”と呼びます」

「そうですね。この時代に、人類は、さんざん、不幸を経験し、不幸をまき散らし合い、不幸を互いに強要し合い続けました。

そう。人類は、何百年何千年もの長い間、まさに病を患っていたのです。

音楽フェード・アウト ♪冬 Winter

音楽イン ♪春 Spring

しかし、人類は、病を治し、どうにか健やかに再生できました」

「誰のおかげでしたか？」

「当時の、みんな一人一人のおかげです」

「当時の、みんな一人一人の何のおかげでしたか？」

「当時の、みんな一人一人の気づきのおかげです」

「当時の、みんな一人一人の、何の気づきのおかげでしたか？」

「常識ですよ。Against Life 病が蔓延していること、健全さを取り戻すためには、最終的に、For All Life 路線こそをとり続けることが大事であることの気づきのおかげです」

「その通りですね。ココエが活躍していたころから、あらゆる分野、あらゆる場面において、Against Life 病が蔓延していることに、気づいたのおかげです。

それは、人間社会におけるあらゆる苦難、害悪、罪悪の本質が、“他者が犠牲になるのはよく、自分らさえよければいい”的な発想に

基づく Against Life 病であることに気づいたおかげであり、同時に、人間社会におけるあらゆる幸福、善益、功德の本質が、“自分らだけでなく、みんなも喜ぶことこそがよい”的な発想に基づく For All Life 路線であることに気づいたおかげでもあります。

それは、この地球上であらゆる人間社会どうしが争い合い続けることが、個体の中であらゆる細胞社会どうしが争い合い続けるほどに、愚かで不健康であることに気づいたおかげでもあります。

つまり、一人一人が、Against All Life 病が、あらゆる不健全さ——邪悪さ、醜さ、不毛さ、不調和、不快さ、不信、憎しみ…の根源であることに心の底から気づき、その上で、一人一人が、あらゆる健やかさ——善良さ、美しさ、豊かな実り、調和、心地よさ、信頼、感謝…の根源である For All Life 路線をとるように心の底から転換することが、みんなに広まり続けたからこそ、人類全体も気づき、再生できたのです。

この時代のことは、ふつう、何時代と呼ばれていますか？」

「ルネサンス時代と呼ばれています」

「そうですね」

「先生、ルネサンス時代ではなく、ルネサックス時代と呼ばれているのは、なぜですか？」

「わかりません。」

いずれにせよ、このルネサックス時代に、一人一人の気づきのおかげで、それまで人類の中で、ひどく流行<sup>はや</sup>っていた Against Life 病が少しずつ克服され、For All Life 路線の健康な状態への再生が少しずつ広まり続け、ついに全人類が健康を取り戻すに至ったのです」

「どうして、ルネサンス時代に、それが起こったのですか？」

「さまざまな要因が考えられています。

その中で、特に、ココエのりんごの実証実験を通じた気づき、および、その気づきをきっかけとした、心の底からの再生——ビクビク、クヨクヨ、モンモン、ヘトヘト、ピリピリ…から、ニコニコ、イキイキ、ワクワク、ウキウキ、ホワホワ…への心の再生——が広まり続けたことが大きかったと言われています。

さらには、ココエの示した再生可能<sup>こころ</sup>心エネルギーの考えも、大きな影響をおよぼしたとも言われています。

ですので、ルネサンス時代は、“心再生”時代、あるいは、ときに“心笑再生”時代とも呼ばれています。

——ココエは、次のような言葉を残しました。

“電荷エネルギーや磁極エネルギーがくめども尽きない究極の再生可能エネルギーであるとするならば、心のエネルギーは、くめどもくめども尽きない超究極の再生可能エネルギーである——”

彼は、何度も何度も絶望を乗り越え続けながら、健やかな自己フルーツ化——“自己実現 For All Life”を果たしました。

彼は、すてきな“フルーツ For All Life”を生み出しました。

私たちも彼を多いに見習いましょう」

「ハイ♪」

「そこで、最後の課題です。

みなさんは、どのような健やかな自己フルーツ化——どのような“自己実現 For All Life”を果たしたいでしょうか？

君らは、どんな“フルーツ For All Life”を生み出したいですか？

それを、少しずつ、レポートにまとめてみてください。

提出義務は、ありません。

提出期限も、ありません。

高校を卒業してから、提出してもかまいません。

大学を卒業してから、提出してもかまいません。

就職してから、提出してもかまいません。

結婚してから、提出してもかまいません。

社会人を引退してから、提出してもかまいません。

...

ゆっくり、自分自身を見つめながらまとめてみてくださいね。

もし提出したくなったら、いつでも提出しにいらっしゃい。

教師たちは、代々、受付を引き継いでおきますから――。

今日は、この学校生活、最後の歴史の授業ですね。

少し、早いですが、みなさん、ご卒業、おめでとう。

みなさんの活躍を楽しみにしています」

音楽終了 ♪春 Spring





## はるかにミライのいつか——

地球上で誕生した健やかな全人類レベルのライフは、天体生態系社会レベルのライフ——宇宙生態系レベルのライフの一員として健やかに宇宙デビューを果たしながら、立派に活躍し続けている——。

どこかの天体での核爆発の発生シグナルがキャッチされた。

「はあー、始まってしまったわ」

「また核爆弾を使い始めてしまったよ」

「ある意味、いずれ、遅かれ早かれ、この道をたどることが少ないのだけれど——」

「ただ、それでも、今回は、まだ望みがありそうよ」

「なんととっても被爆種が、全く復讐しようとしていないからね」

「復讐するどころか、核兵器の廃絶を率先して推進しているからね」

「そうね。でも、これが、レアで貴重な一歩だって聞いたわ。」

それにしても、どうして、多くの異星人類の一部の種は、病み続けて復讐に燃え続けてしまうのかしら」

「1つは、被害者の無念に心を痛めて悲しみが止まらず、心が安らかにならないままだからだろうね。ある意味優しすぎるのさ。でも、全く気の毒なことさ。1つの天体の中で病み続けて、アンチ非自種の方針をとり続けてしまうことは、1つの人体の中で病み続けて、アンチ非自細胞、アンチ非組織、アンチ非自器官の方針をとり続けてしまうほど愚かで、新たな悲惨な結果を招いてしまうのだから」

「そうね。悲しくてつらいけれど、この愚かさや新たな悲惨さに自ら気づいて自身で病を克服できるような賢い人類でなければ、宇宙デビューする資格はない。アンチ非自種を正当化し続けるような愚

かな未熟人類は、厳しいけれど、地球からも退場してもらわないといけない。次の新しい人類にチャンスを与えるためにも——。

もちろん、最初から宇宙デビューの資格があるなんてことは稀で、“罪を憎んで種を憎まず”の言葉が示唆しているように、過ちに気づいて軌道修正する可能性がある限り、本来どの未熟人類にも資格を得る望みがある」

音楽イン ♪ Birthtime

「ひとまずは、チャンスを与えられた、この新しい異星人類に、病から再生して無事に育ち続けることを期待するしかないですね」

「そうですね。どうか病が治って無事に育ち続けますように——」

「今回の新異星人類は、病から再生できて、無事に育ち続けて、健やかな誕生に至り、愛されながら繁栄し、宇宙の宝となれるだろうか？ それとも、病から再生できないで、流産して、あるいは、中絶させられて、健やかな誕生を果たせず、疎まれながら滅亡し、宇宙の屑<sup>くず</sup>となるだろうか？」

「早く気づいてほしいね。この重大な分岐点の存在に——。

病から再生できれば、存続。誕生。愛され、繁栄。宝。

病から再生できなければ、流産。中絶。疎まれ、滅亡。屑<sup>くず</sup>。

そんな、あたりまえのことに——」

「本当に、早く気づいてほしいよ。

病から再生できなければ、他滅だけでなく自滅が待っているという事。そんなに、悲劇的でもつたいないことに——」

「本当に、早く気づいてほしいね。病から再生できれば、みんなが存続できて、健やかに誕生&宇宙デビューできて、いいことづくめが待っていること。そんなに、おいしくてありがたいことに——」

「この分岐点の存在を、今すぐ教えてあげたいけれど、自然治癒を待つしかない——」

「お願い。早く気づいて。早く」

「気づいて、病から再生できれば、この新異星人類も、健やかな恒久的平和、健やかな宇宙デビューにたどり着ける」

「たどり着いてほしいね。」

新しい人類も、いつかここへ——」

「全く、そうだね。——気づいてくれ！ 気づいてくれ！ 再生してくれ！ 再生してくれ！ どうか、無事に育ち続けてくれ！」

「無事に育って！ 無事に育って！

そうして、無事に、宇宙へ誕生してきて！ そうして、この宇宙の新たな宝になって！ そうして、お祝いされて、愛され続けて！」

「ルネサンクス、ルネサンクス、ルネサンココエ、ピピピーピピー♪」

「なんですか？ それは」

「はるかなカコから伝わるという、おまじないでござる」

「不思議な響き——。——ルネサンクス、ルネサンクス、ルネサンココエ、ピピピーピピー♪」

...

音楽エンドロールに続く ♪ Birthtime

7つのワクワク枠 / The 7 Frames For All Life

## シンプル エピローグ

～分岐点～

【完】

さんぽフルーツ【物語 3.31】『7つのワクワク枠』《10》  
シンプル エピローグ～分岐点～ 2023年7月 - 2025年1月